

## CONTENTS

企画展 よみがえる長崎出島の暮らし	2
友の会のページ	3
津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム	4
資料館展示品から	5
NEWS FILE	6・7
INFORMATION (催し物のご案内)	8

# 洋学 資料館

No. 12  
February, 2014

幕末から明治期にかけて、新聞や売薬などの様々な事業で先駆的な活躍をした岸田吟香は、現在の美咲町栃原に生まれました。吟香は8人兄弟の長男で、3人の妹がいます。長女のよしは難波利助と結婚しますが、若くして亡くなってしまいます。そのため利助は次女のうめと再婚しました。かつて吟香も訪れたという難波家の墓所には、よしとうめが姉妹仲良く眠っています。うめの墓碑には、「岸田秀治郎二女」そして「吟香妹」と誇らかに刻まれています。(津山市)



津山洋学資料館  
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING



12月1日(日)、友の会の史跡見学会が開催されました。今回は、その前日に開幕した冬季企画展「くらしと実学―在村知識人の活動―」に関連して、津山市堀坂・田熊・河面・池ヶ原に残る和算関係の史跡を



田熊では中村周介・嘉芽市の墓所に参拝しました。周介・嘉芽市のお墓は並んでたっており、2人の深い絆がうかがえるようでした。また、近くには門人が建立した嘉芽市の顕彰墓碑もあり、嘉芽市の事績が漢文

見学しました。最初に訪れたのは堀坂の暗渠です。岩山を削り貫いたこの水路は、企画展でも取り上げている中村周介と周介の弟の孫である嘉芽市が工事を指導して、文政6(1823)年3月に完成しました。延長約100m、銀26貫をかけたこの水路は、今も堀坂の地を潤しています。実際に暗渠を目の当たりにして、約200年前の技術に、参加された皆さんも感心しきりの様子でした。堀坂を後にして、次の見学地向かう車中から常陸国土浦藩(現・茨城県土浦市)の近長陣屋跡を見学しました。ここにいた土浦藩の代官・亀田清助が中村周介に暗渠開削を依頼し、その完成によって、堀坂の農民は洪水の不安から解放されたのです。



蘭学・洋学の歴史を考えると、欠かすことのできないのが長崎の出島です。江戸時代、日本が唯一西洋に開いていた窓であった出島に、オランダを通じて西洋の文物や学問がもたらされ、そして各地へと伝わっていきました。宇田川家をはじめとする津山の洋学者たちも、出島を介してもらわれる蘭書によって知識を得、江戸参府中のオランダ商館長(カピタン)や商館医たちから教えを受けました。また、実際に長崎まで赴いて勉強した石井宗謙や石坂桑亀らの存在も忘れることはできません。本展では、出島がこのような日蘭交流や西洋文化の受容で担った役割を、「出島の貿易品」、「出島を訪れた日本人の足跡」、「カピタンたちの衣・食・住」、そして「出島から伝わる学問」という4つのテーマで紹介しました。会期中には展示解説も実施し、クレーパイプやボタンなど、出島から出土したオランダ人たちの生活用品に、訪れた方たちは「当時の人々の息吹が感じられるよう」などの感想を寄せていました。また、シールボルトが門弟に贈った眼科器具や、門弟が提出したオランダ語の論文を見て、シールボルトが蘭学の発展に与えた影響の大きさを感じたと言われる方も多くいらつしやつたことが印象的でした。最後にになりましたが、本展の開催にあたっては、長崎市のシールボルト記念館、出島復元整備室をはじめ、関係各位より多大なるお力添えを賜りました。ここに記して厚くお礼申し上げます。



よみがえる  
長崎出島のくらし

(写真: 染付美登手大皿VOC字文 出島復元整備室所蔵)

秋季企画展 会期:平成25年10月12日(土)〜11月17日(日)

で記されています。

河面の清瀧寺は821(弘仁12)年に建立されたと伝えられる古刹で、この本堂の改修の際に、中村周介が天井鏡板に鳳凰図を描きました。周介は津山藩絵師の狩野如林から絵画を学んでおり、見事な鳳凰に一同感嘆の声を漏らしていました。

最後に池ヶ原で中庄屋を務めた大岡家の屋敷跡・墓所を見学・参拝しました。大岡家のもとの名字は「岡」といい、明治の中頃、熊次郎という人が改めました。横浜のある研究者が所蔵する和算書に「作州勝南郡池ヶ原 岡氏藏本」という蔵書印が押されていることから、熊次郎が和算を修めていたことが推測できます。ここでは丸尾久重さんに大岡家の人々の思い出をお話しいただきました。その後、湯郷温泉に向かい、ゆの館で昼食と温泉を楽しみ、今回の見学会を終えました。

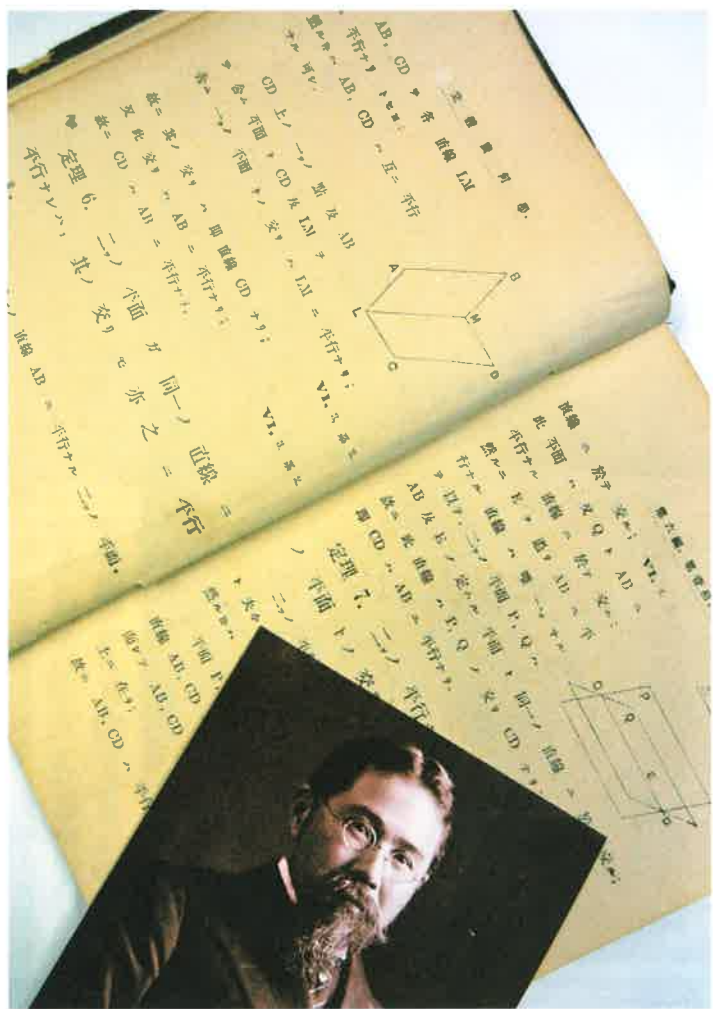
当日は非常に寒い朝でしたが、次第に気温も上がり、心配された雨も降らず、参加者の皆さんから、有意義な一日を過ごすことができたとの感想をいただきました。

- 堀坂暗渠(堀坂) ↓
- 近長代官屋敷陣屋跡(近長・車中見学) ↓
- 中村家屋敷(車中見学)・墓所(田熊) ↓
- 清瀧寺(河面) ↓
- 大岡家屋敷跡・墓所(池ヶ原)



## 資料館展示品から

### 作家の自叙伝にも登場 「菊池の幾何」を世に広めた教科書 『初等幾何学教科書』



▲『初等幾何学教科書 立体幾何学』と大麓

▶中表紙

これは箕作阮甫の孫で、秋坪の次男である菊池大麓が著した『初等幾何学教科書』です。

大麓は、弱冠11歳でイギリスへ留学、幕府が倒れたことで一度は帰国しますが、15歳で再度渡英。ロンドン大学とケンブリッジ大学で学位を得て22歳で帰国し、東京大文学部教授、理学部長、東京帝国大学総長、文部大臣、京都帝国大学総長などを歴任したことで知られています。

それと同時に、近代数学の紹介者としての一面も持っています。その代表的な著作

がこの教科書。1888（明治21）年に尋常師範学校・尋常中学校の教科書として、平面幾何学と立体幾何学の2冊が刊行され、「菊池の幾何」と名声を高めたといわれています。

それを裏付けるエピソードがひとつ。「父帰る」などの作品で知られる作家の菊池寛は、回想録「半自叙伝」の中で、高松中学校時代の「わいた」（讃岐弁でいたすら）の思い出として「温厚な数学の先生のととき、私は三角形ABCの代わりに、三角形イロハと書いた。近來の教科書にはイロハと書

いたものが多く、珍しくもないが、しかし菊池大麓博士の教科書ばかり使っている当時、三角形にイロハと書くことは、可なり素晴らしい思附であると同時に、先生の権威に対する挑戦だった」と書いているのです。明治30年代の香川の中学校でも、「菊池の幾何」が浸透していたことがよく分かります。

ちなみにその後菊池寛は、同級生の喝采を受けますが、数学の主任の先生からは「ヒドク叱られた」のだとか。

文：学芸員 田中美穂



## 津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム 美作の人 岸田吟香の情報・経営学

基調講演 講師：明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部教授 岩下哲典先生  
対談 明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部教授 岩下哲典先生  
洋学史学会理事・前津山洋学資料館長 下山純正先生

今年で3回目となる洋学資料館・上廣歴史文化フォーラムを、12月14日（土）に開催しました。基調講演に明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部教授の岩下哲典先生、対談では岩下先生と洋学史学会理事で前洋学資料館長の下山純正先生をお迎えして、生誕180周年を迎えた岸田吟香についてお話しいただきました。

基調講演では「美作の人 岸田吟香の情報・経営学」と題してお話しいただきました。吟香の生地、美作国久米北条郡坪和村（現・岡山県久米郡美咲町）について、吟香自身は「山ざとなり」と簡略に紹介していますが、先生が訪れたところ「桃源郷のようだった」との感想を持たれたそうです。そんな地に生まれた吟香は、ヘボンとの関わり、日本最初の和英辞書『和英語林集成』編纂・出版の手伝い、「精銚水」の販売等で有名です。ヘボンは、洋学・国学・漢学に精通した吟香の学識を高く評価していました。

その吟香のコミュニケーション力、情報活動について、あまり知られていないエピソードを交えてご紹介いただきました。

対談では、吟香の位置づけについて、色々なことをやっており、つかみどころがないが、吟香はそれらの業績を個人のものとはしなかったこと、吟香の詩の種が現代のいたるところにあることなどをわかりやすくお話しいただきました。

当日は雪も心配された、とても寒い一日でしたが、たくさんの方にご参加いただき、皆さんメモを取るなど、興味深い様子で熱心に聴いておられました。





▶オムニバス講演会の様子  
報告する館長(上)と次長(右)



### オムニバス講演会開催

1月26日(日)、学芸員による  
研究報告会(オムニバス講演会)  
を開催しました。

今回の統一テーマは「箕作阮甫、  
長崎へ行く」阮甫が出会った人・  
もの・文化」でした。1853  
(嘉永6)年、津山藩医の箕作阮  
甫は、幕府の対ロシア交渉使節に  
従って長崎へ赴きました。その旅  
の間に記された日記『西征紀行』  
には、道中に出会った人々や長崎  
の文化、そして阮甫の考えが生き  
生きと記されています。

この『西征紀行』の記述をもと  
に、「阮甫が出会った長崎グルメ」  
(小坂田)、「阮甫が見た出島」(田  
中)、「阮甫の関心」これより楽  
しきはなし」(乾)の3つのテー  
マを取り上げ、報告しました。

当日は、曇り空の寒い一日でし  
たが、多くの方に参加いただき、  
終了後には「箕作阮甫は厳格な学  
者のイメージだったが、お酒好き  
という意外な一面を知って親近感  
を持った」『西征紀行』という資  
料の面白さが感じられた」などの  
感想をいただきました。

### 進む教育機関と資料館の連携・協力事業



#### 岡山県高等学校教育研究会 地学分科会を実施

10月10日(木)、岡山県高等学  
校教育研究会理科部会地学分科会  
の先生方が、資料館で研修会を行  
いました。最初に学芸員が「箕作  
阮甫と地質学」のテーマで講演し、  
阮甫が地質学書の翻訳を行い、「地  
質学」の語を日本で最初に使った  
のは阮甫であることなどを紹介し  
ました。

その後、館内の見学をされ、津  
山から多くの学者が出たことに感  
心しておられる様子でした。

#### 岡山大学国際交流センター リージョナルカンファレンスを実施

10月26日(土)、岡山大学国際  
交流センターのリージョナルカン  
ファレンスが資料館で開催されま  
した。テーマは「東洋」と「西  
洋」の文化交流・融合」で、中国  
や韓国からの留学生の方が参加さ  
れ、展示見学と学芸員の講演の後、  
江戸時代の西洋学問の受容を題材  
に、異文化の衝突と融合について、  
研究討論しておられました。

#### 津山東高校

#### 「地域理解学習」を実施

昨年に引き続き、今年も津山東高  
校1年生の皆さんが、資料館で「地  
域理解学習」を行いました。

11月20日(水)に同校で乾次長  
が「津山の洋学について」との  
テーマで講義を行った後、12月10  
日(火)、17日(火)、1月21日(火)  
の3組に分かれて資料館に来館。  
見学と奉仕活動を行いました。

奉仕活動では、資料館前庭や菓  
草の小径の草抜き、銅像の清掃な  
ど、寒空の下で一生涯懸命作業に取  
り組んでくれました。



#### 津山高校理科 「博物館研修」を実施

12月7日(土)、津山高校理科  
科1年生の皆さんが、「SSH  
(スーパーサイエンスハイスクール)  
博物館研修」で資料館に来館しま  
した。

津山高校の見学は、資料館が新  
館へ移転する前、旧館の時代から  
長年継続してきました。今回は見  
学だけでなく、テーマ研究を行い、  
生徒がそれぞれに関心のある課題  
を決めて、展示を見ながら学習を  
行っていました。

皆さん熱心な様子でメモを取り  
ながら、学芸員への質問も活発に  
出ていました。



#### 資料館の収蔵品が 出展されます!

洋学資料館の収蔵資料が、  
世田谷美術館・岡山東立美術  
館で開催される「岸田吟香・  
劉生・麗子」知られざる精神  
の系譜」展、国立科学博物館  
で開催される特別展「医は仁  
術」に出展されます!ぜひ  
ご観覧ください。

#### 「岸田吟香・劉生・麗子 知られざる精神の系譜」

東京会場:世田谷美術館  
2月8日(土)~4月6日(日)  
岡山会場:岡山東立美術館  
4月18日(金)~5月25日(日)

#### 「医は仁術」

国立科学博物館  
3月15日(土)~6月15日(日)



出展予定の『和蘭葉鏡』



# INFORMATION

平成25年度の催し物(予定)

企画展

4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「岸田吟香～わがふるさと～」</li> <li>21 第68回文化講演会 講師：法政大学通信教育講師 土井康弘 先生</li> <li>21 友の会総会 (休館日：22・30日)</li> </ul>	4/20～ 生誕100年記念 岸田吟香 わがふるさと～
5月	(休館日：1・7・8・13・20・27日)	
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>8 友の会研修バス旅行 (休館日：3・10・17・24日)</li> </ul>	～6/23
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「解体新書と美作の洋学者たち」</li> <li>28 ヒンデローベン絵付け体験教室 (休館日：1・8・16・17・22・29日)</li> </ul>	7/6～ 解体新書と美作 の洋学者たち
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 江戸時代の化学書からの実験教室 (休館日：5・12・19・26日)</li> </ul>	
9月	(休館日：2・9・17・18・24・25・30日)	
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「よみがえる長崎 出島のくらし」 (休館日：7・15・16・21・28日)</li> </ul>	10/12～ よみがえる長崎 出島のくらし
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「くらしと実学 —在村知識人の活動—」 (休館日：5・6・11・18・25・26日)</li> </ul>	
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 友の会史跡見学会</li> <li>14 津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム「美作の人 岸田吟香の情報・経営学」 岩下哲典先生・下山純正先生 (休館日：2・9・16・24・25・27～31日)</li> </ul>	11/30～ くらしと実学 —在村知識人の活動—
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>26 学芸員による研究報告会 (休館日：1～4・6・14・15・20・27日)</li> </ul>	
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>16 冬季企画展関連講演会「算術入門」 講師：津山市立図書館館長 大倉淳一 さん (休館日：3・10・12・17・24日)</li> </ul>	
3月	(休館日：3・10・17・24・31日)	～3/16

■企画展 ■催し物 ■講演会 ■友の会



開催中 平成26年3月16日(日)

くらしと実学

—在村知識人の活動—

## ・ ・ ・ 刊行物のお知らせ ・ ・ ・

■ 洋学研究誌「一滴」第21号を刊行しました。

### 目次

- 牧野富太郎の報告文と標本 …加藤藤重 (1)
- 明治期女子中等教育と久原躬弦著「女子教育化学と鉱物」 …長田直子 (45)
- 世界の高山の標高を巡る訳述とその原典 —「窮理通」, 「鷲毛筆乘」, 「坤輿図論補」など— …野村正雄 (69)
- 平成24年度企画展報告  
万病に挑む —在村医たちの足跡を追って— (91)  
地図で世界を旅しよう!! (95)
- 牧野富太郎生誕150年記念 首都大学東京付置機関 牧野標本館協力企画  
植物に魅せられた二人  
—シーボルトと牧野富太郎の植物標本— (99)  
良薬口に苦し —くすりとのあゆみ— (111)
- 『錦葉先生通信録』の翻刻—乾ノ一(2の1)— …土井康弘 (152(1))—  
全152頁 800円

## ご利用案内

- 開館時間／9:00～17:00  
(入館は16:30まで)
- 休館日／月曜日(祝祭日の場合はその翌日)  
祝祭日の翌日・年末年始(12月27日～1月4日)
- 入館料／

一般	高校生・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)

※( )内は30名以上の団体料金です。  
※小学生・中学生は無料です。



**津山洋学資料館**  
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地  
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864  
URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



### ● 交通のご案内

- ・JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
- ・中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分